

## 第 209 回 昭和の森自然観察会

### 「鹿島川源流を訪ねて」 ―緑の風に誘われて―

武田宏子（千葉市）

日 時：2009 年 5 月 10 日（日）13：00～16：00 天気：晴れ

参加者：大人 31 名 こども 2 名 指導員 21 名 合計 54 名

担当指導員：小林義和、須田聰恵、武田宏子

千葉市で標高が一番高い昭和の森は「3つの川（小中川・村田川・鹿島川）の分水界」となっています。今回は鹿島川の源流域の自然と暮らしをたどります。真夏のような太陽の照りつける暑い午後でしたが、緑の心地よさに励まされ 5.9km のロングコースを元気に歩いてきました。

最初に、昭和の森「太陽の広場」に立って、雨水の行方について考えました。源流の初めは、「太陽の広場」の北側の緩やかな斜面を流れ、カツラの木の辺りに集まり、あすみが丘東の住宅地の下のパイプ（暗渠）に入りこむようです。

昭和の森から落ち着いた町並の残る土気本村に入り、江戸時代「継場」として栄えた六左衛門邸の保存樹木を見、門柱として立てた二つ割のスダジイが芽を出して、命が復活。立派な門柱になっているのを見学し、道筋にそって坂を下ると、「土気調整池」（2haという大きさ）に出ました。そこから北に谷津田が広がっています。この調整池が今わたしたちの目に見ることのできる鹿島川の出発点になります。そこから、水はコンクリート三面張りの水路を流れ、やがて鹿島川となり、若葉区、四街道市、佐倉市約29kmの流域の水田を潤し、印旛沼に注ぐことを説明しました。私たちは印旛沼の水を水道水として飲んでいました。水路の土手にはスカンボがいきおいよく伸び、田植えの済んだ田んぼには水が満々とはられ「土手のスカンボジャワ更紗…♪」と歌いだしたくなるようなのどかでやさしい田園風景が続きます。

谷津の林縁には、ヤマツツジ、サワフタギ、カマツカ、ガマズミ、マユミ、ツリバナ、ナルコラン、マムシグサ、ニガナ、ニワトコ、サルトリイバラなどの花や実が次々に現れ、わたしたちを楽しませてくれます。

調整池から約1km北に進んだところで、小さな枝谷津に入りました。谷津には絞り水を集めた小さな土水路があり、そこにはカエルのオタマジャクシが元気に動いていました。この水も鹿島川へと続いています。谷津の奥近くは自然の地形を利用した釣り堀になっていて、近隣の方々が日々楽しみに訪れているようです。南側斜面の土手に、巣穴から出たり入ったりしている子育て中のカワセミがいます。この枝谷津にそった林縁や小道にはハナイカダやノアザミ、ヒメハギなどたくさんのお花や実が見られました。圧巻はオドリコソウ（日本に元々あったもの）の大群落！！足元でその唇型のお花を覗き込みました。サルナシのお花はまだつぼみでしたが、葉柄の赤が風に揺れ「秋においで。実がなるよ」と誘っているようでした。

通りに出て、土気城主酒井氏5代とその奥方の墓所に立ち寄り、土気城址の方向を目指して帰路を急ぎました。鉄塔の立っているところが土気城三の丸跡、こんもりしている森は土塁跡、その手前に空堀が今も残っています。カミヤツデ、コウヨウザンなど珍しい植物を見て、「松原地区」へ。この地区の人々は、お城の膝元にいるという思いを持っていて、祭りには他地区よりも大きい幟を立てるのだそうです。道標を見て、昔の旅人になったつもりで、土気往還を善勝寺道へ。旧外房線線路跡の鉄橋に立って往時を偲びました。皆さん無事に昭和の森に到着です！「ひとりではたどれないコース。みんなと一緒に歩いて楽しかった。」「暑かったけれど満足です」「オドリコソウがたくさんあって驚きました。」…参加者の感想です。